

色彩学

BULLETIN OF THE COLOR SCIENCE ASSOCIATION OF JAPAN

VOLUME 3 NUMBER 1 2024



巻頭言 色って奥深いよね！

会長 堀内 隆彦 (千葉大学大学院)

長きにわたり本学会会長を務められました篠田博之前会長が、一身上の都合により任期中に辞任されました。そのため、12月24日に開催された理事会で、後任の会長(代表理事)として私が選出され、就任する運びとなりました。引き続きご支援をよろしくお願いたします。

当初、副会長としてこの巻頭言を依頼され、執筆を始めたところだったのですが、一旦中断し、まずは私の経歴を紹介させていただくことにしました。私は、2011年より4年間にわたって、3名の会長のもとで総務担当理事として、引き続き2015年の法人化後から2年間は設立時監事として学会運営に携わりました。2018年から4年間、国際色彩学会(AIC)の理事(Executive committee member)として、世界的な視野で色彩学の発展に携わる様々な業務を経験しました。今年度より副会長として本学会理事会に戻ってきたところでしたが、このたび会長を仰せつかり、学会のさらなる発展に尽力する所存です。

さて、本題。日頃より、各媒体に掲載される私の顔写真が若すぎるといご批判を頂くこと度々でしたので、今回はタイで開催されたAIC2023で、現地カメラマンが撮影した近影を持ってきました。久々に私の顔を見た会員の皆様は違和感を覚えたかと思いますが、前期の講義が終わった晩夏に、生まれて初めて髪全体をブリーチしてから、カラーを入れてみました。もともと、白髪が増えてきたら「髪全体をシルバーグレーにしてしまおう計画」を密かに温めていたのですが、白髪になるよりも早く髪の毛が物凄い勢いで失われていくことに気づき、計画を前倒して実行したわけです。

新しいことを経験すると、様々な発見があります。日本色彩学会員として色には拘りたいところですが、所望のイメージをどうやって伝えたらよいか…。「透明感のあるシルバーグレーかホワイトブロンドみたいな感じで」という私の言語から、ヘアカラーリストの方は2回のブリーチに4色の混色を選択したのです。このカラーマネジメントは、脳内でどう実現されているのだろうか？職業柄、質問を浴びせていました。やはり、経験らしい。基本則はあるけれども、個々の髪色・髪質は全て違うので、ブリーチ後の色を確認してから、染料を経験的に決定しているのだそうです。「それ、自動化したい！」と、研究者魂が疼きました。翌日出勤すると、同僚や学生から、「何で紫？」「緑にしか見えない」「大学の先生って金髪でもいいんですか？」と、それぞれ知覚色が異なることが面白い。お盆に帰省した際には、母親に「ちょっと見ない間に白髪だらけになって…」と言われる始末。あらためて、色の奥深さを感じる事となりました。

髪色が、日々変化することにも興味を持ちました。青紫からグレー、ブラウンと経由し、ブロンドからロマンズグレーっぽく落ち着くまでに、7~8色の変化は楽しめました。さらに、照明色や方向によっても、異なる色として知覚され、途中から測色計で計測を試みたのですが、既に変化が落ち着いた頃だったので断念しました。

そんなこんなで、ベリーショートのは髪は仲秋の頃には自然と黒髪に戻ったわけですが、初冬のAICでこの髪色だったということは…新しい色の沼にハマってしまったのかも知れません。色って奥深いよね。